

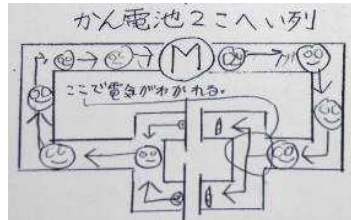
平成24年度 研修のまとめ

1 公開授業・協議会、日常の授業から

今年度は昨年度の課題を踏まえ、「正確な読み取りと、読み取ったことを基に表現する力」（思考力・判断力・表現力）、「学習に対する望ましい構え」（学習意欲・態度）の2つの力の育成に重点をおき、「授業のユニバーサルデザイン」を工夫した実践を行ってきた。実践を通して、以下の5つのポイントが見えてきた。

(1) 活動の仕方を具体的に示す

思考力・判断力・表現力の育成のために、日々の実践で言語活動の充実を図る。さらに、活動への全員参加を具現するために、「資料の読み取り方」「思考の仕方」「表現の仕方」などを、具体的な例示をしながら指導するとよい。



イメージ図の書き方を指導



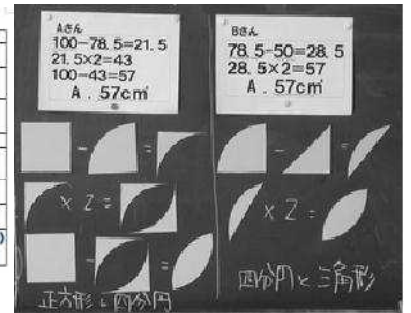
式の読み取り方を示す

(2) 教材・教具の視覚化・焦点化

子どもに読み取らせたい資料、板書などは、着目させたい点を焦点化するとともに、図や写真、色などを効果的に用い、視覚化する。また、表現させる際にも、内容を視覚的に分類・整理したワークシートを用いるなど、一目で分かるような工夫をするとよい。

期数	年	代表者	不平等条約改正の交渉
1期目	1872 (明治5)	岩倉具視 (いわくらともみ)	失敗
2期目	1873 (明治6)	寺島副将 (てらしま ねのり)	失敗
3期目	1879 (明治12) - 1887	井上馨 (いのうえ かねる)	失敗
1886 ノルマントン号事件			
4期目	1886 (明治19)	大隈重信 (おおくま しげのぶ)	失敗
5期目	1890 (明治23) - 1891	青木周蔵 (あおき しゅうぞう)	失敗
6期目	1892 (明治25)	樺本武揚 (はくもと たけあき)	失敗
7期目	1894 (明治27)	陸奥宗光 (むつ おむねみつ)	治外法権 (領事裁判権) 撤廃 (てっばい)!

自作の年表で焦点化



板書で数値を図で示す

(3) 体験と結び付けながら学習させる

「分かる」ということは、学習したことを自分の知識や体験と結び付けることである。身近な体験と結び付けたり、実際に体験したりする活動は、子どもが学習内容を理解するための有効なUDとして働く。体験と結び付けた学習を意図的に単元の中に組織することが大切である。

学年	場所	けがのしるし	学年	場所	けがのしるし
2	中庭	だぼく	2	中庭	すりきず
2	中庭	だぼく	2	教室	だぼく
2	グラウンド	すりきず	3	体育かん	だぼく
2	グラウンド	だぼく	3	体育かん	ねんざ
2	教室	さしきず	4	教室	だぼく
3	多目的ホール	ねんざ	5	体育かん	だぼく
3	教室	だぼく	6	教室	すりきず
5	体育かん	だぼく	1	中庭	すりきず
5	教室	さしきず	2	教室	すりきず
6	教室	だぼく	2	グラウンド	すりきず
2	グラウンド	だぼく	2	グラウンド	すりきず
2	中庭	すりきず	2	中庭	すりきず
3	中庭	すりきず	3	体育かん	つまげ
3	中庭	すりきず	3	特別教室	すりきず
3	ろうか・かいだん	すりきず	3	特別教室	だぼく

身近なけがについて資料化



広さを体感する

(4) 繰り返し・パターン化・ステップアップ

思考力・判断力・表現力、学習意欲・態度といった力は身に付きにくい学力である。そのため、身に付けさせたい学習やルールを、パターン化して繰り返すことが有効である。ただし、同じパターンを繰り返すだけでは、子どもの力はそれ以上伸びない。子どもの実態や成長に応じて、指導のステップアップをしていかなければならない。



繰り返し社会科日記を書かせる



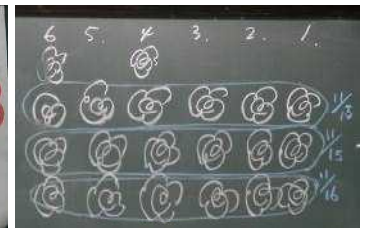
グループ学習をステップアップ

(5) 具体的な目標と評価の共有

例えば、子どもに表現活動をさせる際、「〇分間で〇行以上」などと具体的な目標を示し、こまめに評価を繰り返すことで、子どもは意欲をもち力も伸びる。同様に身に付けさせたい学習の構えなども、明確なルールを示し、評価を繰り返す。評価は子どもの伸びを認める温かいものでありたい。



ルールを視覚化



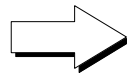
班ごとに評価する

2 学習意欲や理解度を量る意識調査による評価

(1) 児童アンケートの結果 左側は 23 年度、右側は 24 年度（数値は 1，2 学期アンケートの平均値）

ア. 授業に一生懸命取り組んでいますか

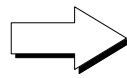
項目	数値 (%)	
はい	50.4	95.9
どちらかといえばはい	45.5	
どちらかといえばいいえ	3.8	4.1
いいえ	0.3	



項目	数値 (%)	
はい	52.3	96.8
どちらかといえばはい	44.5	
どちらかといえばいいえ	2.7	3.2
いいえ	0.5	

イ. 国語の授業の内容が分かりますか

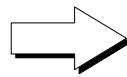
項目	数値 (%)	
はい	52.2	93.8
どちらかといえばはい	41.6	
どちらかといえばいいえ	5.0	6.2
いいえ	1.2	



項目	数値 (%)	
はい	56.8	95.5
どちらかといえばはい	38.7	
どちらかといえばいいえ	4.0	4.5
いいえ	0.5	

ウ. 社会の授業の内容が分かりますか

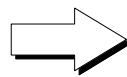
項目	数値 (%)	
はい	48.2	91.0
どちらかといえばはい	42.8	
どちらかといえばいいえ	7.8	9.0
いいえ	1.2	



項目	数値 (%)	
はい	49.1	94.5
どちらかといえばはい	45.4	
どちらかといえばいいえ	4.9	5.5
いいえ	0.6	

エ. 算数の授業の内容が分かりますか

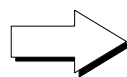
項目	数値 (%)	
はい	50.3	90.4
どちらかといえばはい	40.1	
どちらかといえばいいえ	7.5	9.6
いいえ	2.1	



項目	数値 (%)	
はい	57.2	91.3
どちらかといえばはい	34.1	
どちらかといえばいいえ	7.3	8.7
いいえ	1.4	

オ. 理科の授業の内容が分かりますか

項目	数値 (%)	
はい	60.2	96.9
どちらかといえばはい	36.7	
どちらかといえばいいえ	2.6	3.1
いいえ	0.5	



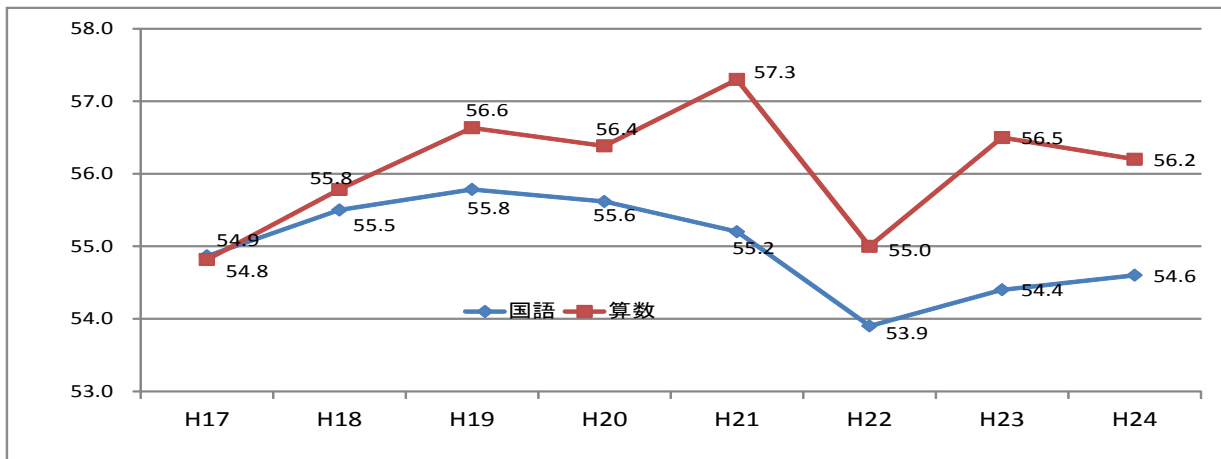
項目	数値 (%)	
はい	64.0	96.1
どちらかといえばはい	32.1	
どちらかといえばいいえ	3.2	3.9
いいえ	0.7	

(2) アンケートの結果から

学習意欲や各教科の理解度を量るほとんどの項目で、昨年度に比べて数値が向上している。昨年度も一昨年度から見ると数値が上がっていたため、2年連続での数値の上昇が見られた。このことは、各学級で「どの子ども『分かる・できる』」を目指した授業改善を2年間継続的に行ってきた成果であると考え。今後も、これらの数値が100%に近づくように、さらなる取組の継続と改善を図っていく。

3 各種学力調査の結果分析による評価

(1) NRT学カテスト偏差値の推移



(2) 全国学力調査の正答率

調査問題	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
見附小学校平均正答率	79.8	54.4	75.2	57.5	64.6
全国平均正答率との差	-1.8	-1.2	+1.9	-1.6	+3.7

(3) 県小教研学習改善調査の正答率

学 年	4 年		5 年		6 年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
見附小学校平均正答率	80.7	78.4	80.9	75.8	76.8	62.4
県平均正答率との差	+6.8	+3.5	+14.4	+5.4	-1.7	-3.1
昨年度結果との比較			+21.0	+12.1	+6.6	+5.6

(4) Web配信問題の年間平均正答数（10点満点）

学 年	3 年		4 年		5 年		6 年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
県平均正答数との差	+0.1	+0.5	+0.2	+0.4	+0.2	+0.7	+0.1	+0.1
昨年度結果との比較			0	+0.2	0	+0.5	+0.3	+0.3

(5) 各種学力調査から

NRT学カテストについては、昨年度からほぼ横ばいの結果であった。昨年度向上させた学力を維持していると言える。また、昨年度は県平均を下回った県小教研学習改善調査の結果を大幅に向上させることができた。今年度、重点をかけた思考力・判断力・表現力育成の成果である。全国学力調査については、理科以外は全国平均をやや下回る結果となった。これは4月当初の結果であるため、昨年度までの指導の結果によるところが大きいと考える。次年度の結果を分析し、あらためて今年度の取組を評価したい。

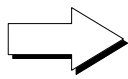
Web配信問題についても、特に算数で昨年度よりも数値を向上させることができた。これは、

昨年度の解説・サポート問題から、各単元で子どもがつまずくと予想される内容を洗い出し、日々の授業で重点をかけながら指導を行ってきた成果である。ただし、国語については、算数ほどの成果は見られなかった。指導内容が2学年に渡ることや、指導内容と教科書単元との関連を捉えにくいという特性から、解説・サポート問題を日々の授業改善に生かしきれなかったことが原因であると考え。今後、国語の解説・サポート問題の授業への生かし方を考えていく必要がある。

4 市販テストの結果と各学年で設定した規準による評価

(1)市販テストの結果について 左は1学期、右は2学期の結果。期待平均得点を上回った児童の割合。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	76.3	64.5	63.3	72.7	79.7	84.3
社会			70.3	63.7	72.3	36.0
算数	80.3	50.5	66.3	58.7	68.7	48.7
理科			75.3	61.0	66.3	67.7



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	64.5	63.8	70.0	83.0	79.0	73.7
社会			84.7	63.0	78.0	47.0
算数	50.5	72.3	74.7	58.3	73.3	66.7
理科			82.3	55.7	79.3	67.7

今年度から、市販テストの業者を統一し、期待平均得点を上回った児童の割合に着目することにした。学年・教科の差とともに、表には表れていないが学級によって数値に大きな差が見られた。2学期は各学年で数値目標を定め、意識的に取り組んだ結果、全体として学級差の改善と全体としての数値の向上が見られたが、課題の残る結果となった。

(2)学習の構え、思考力・判断力・表現力を量る評価について

各学年で2ヶ月毎に目指す具体的な学習の構えを設定し、評価を行った。また、思考力・判断力・表現力を高めるため、各学年ごとに年間4単元の重点単元を設定し、規準を定めて評価を行った。目標を定め、共通理解を図ることが子どもの力を高める上で効果があった。次年度は、より具体的な評価規準を設定することを目指していきたい。

5 次年度へ向けて

2年間の研究を通して、「授業のユニバーサルデザイン」化の理解が図られ、日常的に様々な工夫が行われるようになった。その結果として、昨年度以上にアンケートや各種調査の数値が向上した。今年度、重点化して育ててきた思考力・判断力・表現力、学習意欲・態度といった資質・能力は、子どもが身に付けるまでに時間を要する。次年度も取組を継続し、子どもの力を着実に伸ばして行かなければならない。加えて、職員一人一人が今の自分の指導に満足することなく、本質を見極めたより高く、深い指導を目指していくことを求めたい。そのために、以下の3点について取組をさらに改善していきたい。

- 「授業のユニバーサルデザイン」化について、よりパーソナルな視点を大切にすることで、抽出児の実態を指導に生かせるようにする。子どもを見取る力を養いながら、子どもの実態や育ちに合わせた授業のUD化を図っていく。
- 身に付きにくい資質・能力を育てるために、職員一人一人が1年を通じて、子どもにどんな力をつけたいのか目標と手立てを明確にもつようにする。学校全体では、6年間をかけて子どもの国語力の基礎を養うために、「全校視写タイム」を取り入れる。
- Web配信システムにより設定した重点内容の授業のUD化を図る。特に国語のWeb配信問題の授業への有効な生かし方を探っていく。